

●「生活再建に関する懇談会」で出された“声”を行政に届ける活動

みやぎ生協では、東日本大震災後の9月から「被災者懇談会」を開催し、被災された方々の生活再建に関する意見や要望を直接お聞きし、必要な声を行政に届ける活動を行ってきました。2014年度は、「生活再建に関する懇談会」と名前を変更し、石巻市・気仙沼市・東松島市で開催しました。

意見や要望が多かったのは、集団移転用地の地盤強度に関することや、災害公営住宅の駐車場など住環境に関するもので、これまで多くを占めていた仮設

住宅の設備等に関する声は減少し、転居者が多くなる中で防犯や自治会運営の困難さなどに变化しています。

出された声は「生活再建に関する要請」にまとめ、5月28日（木）に気仙沼市長へ、5月29日（金）に東松島市長に届けました。（石巻市は日程調整中）

これからも、被災された方々の声を聞く機会を作り、生活再建のための支援を継続していきます。

（生活文化部 須藤敏子）



菅原茂気仙沼市市長(左)



古山守夫東松島市副市長(左)

● 女性ネットみやぎ「3周年のつどい」

宮城県内の幅広い女性たちが参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（以下、女性ネットみやぎ）の「3周年のつどい」が、5月10日（日）仙台弁護士会館を会場に、176人の参加で



講師の福島原発告訴団武藤類子団長

開催されました。

福島原発告訴団団長の武藤類子さんによる「福島は今～原発事故は何をもたらし、何を奪うのか～」と題した講演が行われました。

その後の活動交流では、「子どもたちへの被ばくと健診、私たちの課題」として女川原発の再稼動を許さない！みやぎアクションの篠原弘典さんからの報告、加美町議会議員の伊藤由子さんから「指定廃棄物処分場問題の運動から」の報告があり、会場との質疑応答・意見交換も活発に行なわれました。

参加者からは、「今まで疑問に思っていたことがわかりました。福島の実状に心が痛みます。今、私たちが取り組まなければならないことを考えさせられました」など、たくさんの感想が寄せられました。

子どもたちを放射能汚染から守るために、様々な団体とのネットワークを広げていく要としての女性ネットみやぎへの期待が高まっていると感じさせる会でした。

（生活文化部、女性ネットみやぎ事務局 昆野加代子）

松島医療生協

● 石巻市に被災者支援の拠点「健康センター」を開設

5月27日（水）に、医療福祉生協の被災者支援の拠点となる「松島医療生協被災者支援・石巻健康センター」を、石巻市向陽町に開設しました。

石巻支部では、震災後から行われている「みやぎ生協蛇田店・ふれあい喫茶」に毎回参加し、被災者の健康管理の一助として「健康チェック」を行っています。

支部からは、いつでも被災者をはじめ、誰でもが気軽に立ち寄り、健康や生活の相談、お喋

りできる「たまり場」の設置が、切望されていました。

この度、日本医療福祉生協連合会からの支援もあり開設することができました。オープン時間は、月～金曜日の10時から13時までですが、時間前から多くの方々が来てくださり賑わっています。

今後は、健康センターでの活動を通じ、医療生協の魅力を広げ、生協運動の可能性を広げたいと考えています。

開設に先立ち、5月14日（木）



健康センターで体操する様子

に、石巻市と被災者支援について懇談することができました。更に、健康センターの開所式には、石巻市の課長2人にご参加いただきました。今後は、自治体とも連携を取りながら、被災者支援を継続していきます。

（前専務理事 青井克夫）

東北大学生協

● 過去から現在、そして未来へ ～防災意識を高めよう！6.12防災フェスタ～

東北大生協では、3組織委員会の共同企画として6月12日（金）に「防災フェスタ」を実施しました。

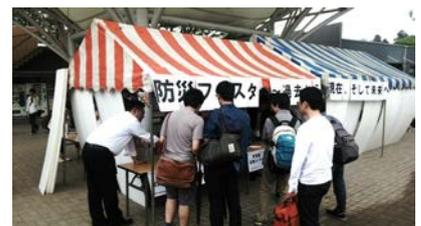
6月12日は、37年前に宮城県沖地震が発生した日であり、現在は県民防災の日に指定されています。「防災フェスタ」は3.11東日本大震災について学生に知ってもらおうとともに、防災意識を高めてもらうことが目的です。

フェスタでは、過去・現在・未来の3つのブースを用意しました。「過去」ブースでは、震災時の東北大学の様子を写真パ

ネルで掲示し当時の様子を伝えました。「現在」ブースでは、被災地の復興状況を伝えました。

「未来」ブースでは、非常食の試食、防災グッズの展示、ネパール大地震への募金を取り組みました。また、学生委員会が作成した防災冊子「namazu」を、学生に300部以上配布し、防災意識の向上をすすめました。

参加者からは、「被災当時の東北大のことを知ることができた」という声を多くいただき、後日、防災グッズを購入される学生もいました。



非常食の試食コーナーの様子

3.11東日本大震災の年に入学した学生は、今年の3月に卒業し、震災の記憶は今後ますます風化していくことが考えられます。東北大生協では、継続的かつ長期的に風化を防ぎ、防災意識の向上をすすめていきます。

（専務理事 峰田優一）